

SURE: Shizuoka University REpository

<http://ir.lib.shizuoka.ac.jp/>

Title	老舗企業の持続メカニズムの理論と応用に関する研究 : 拡大成長から持続型経営へ
Author(s)	森下, あや子
Citation	
Issue Date	2014-12
URL	http://doi.org/10.14945/00010010
Version	ETD
Rights	

This document is downloaded at: 2017-05-29T19:06:06Z

日本社会は、国内の空洞化、雇用形態、失業、格差などの様々な経済的問題に直面している。経済成長の限界に直面しつつある現在、企業は「拡大」から「持続」のモデルに転換せざるを得ない。企業経営において、持続への転換とは、何をどうすることなのか不明である。また、激しい競争の中で、なぜ、ある企業は生き残り、他は滅びるのか、持続性の要因も世界的に明らかになっていない。本稿の目的は、企業の持続性を実現する駆動力を明らかにし、拡大型のビジネスモデルに行き詰まりを感じている多くの企業経営の指針となるような、持続型経営の理論と実践を明らかにすることである。

既にこれまで4編の論文（第一著者の論文は3編）が発表されている。本博士論文の第2章から第3章には、第一著者の論文3編の内容が書かれている。

仮説は、地球上で最も持続している組織である生物から導出し、老舗企業の経営および数理生物学的視点による格子気体モデルを用いて検証した。

第1章は、研究の目的、意義、課題、方法である。

第2章では、生物組織の持続性のメカニズムから仮説を3つとした。① 密度：規模・成長抑制、② 相互作用：組織内および外部との関係性、③ 内視点：内からの絶えざる変革である。

第3章では、日本に偏在する長寿企業に広範なインタビュー調査を行い、プロトコル分析を行った。分析は、データマイニング（キーグラフ）を用いて実施した。

1) 長寿企業は、年輪のように毎年ゆっくり成長する。拡大成長とは異なる価値観も持っている。2) 組織内だけでなく、地域や、同業、取引先との関係も大切にする。3) 売上げ、利益、効率などの外部からの評価ではなく、続くこと、社員が成長すること、幸せになること、誰かのためになることなど、内的価値を大事にしている。

第4章では、競争と協力の格子気体モデルを用いて仮説検証を行った。成長の限界に近いときは、協力関係の効果が大きい。成長の限界に遠いときは、競争力を高めることが、増加の要因であった。企業環境とパラメータを結びつけることにより、持続型経営指針を工学的に導出できるようにした。普遍的な持続性を実現する駆動力を論理的および実証的な方法で解明することができた。これらが評価され、実践経営学会にて学会賞を受けている。

さらに、最終試験において、持続性に関し、海外の企業との関係、規模との関係、細胞内のゆらぎのイメージ、数理生物モデルのパラメータの確認などすべての質問に的確に答えていた。以上のことから、博士（工学）の学位授与にふさわしい実力を有するものと認められる。審査会は全員一致で合格とした。